

九州地方会特別幹事挨拶

日本小児歯科学会九州地方会 創設三十周年記念を迎えて

日本小児歯科学会九州地方会 特別幹事 品 川 光 春



地方会も発足してから30周年を迎えるということは、大変感慨深いものです。全国各地区的地方会発足の経緯は、それまでの春季と秋季の年2回の全国大会が大学の持ち回りのこともあり、結果として大学の多い首都圏での開催や基礎的な研究発表が多くなり、会員の多数を占める開業医が参加しにくい状況になったのも大きな要因だったと思います。

30周年という一つの節目に、地方会設立の意義について私なりに再評価してみると、大学のない九州各地の県でも開催されたこともあり、時間的にも経済的にも負担が少なく、また地元ということもあり開業医にとっても親しみやすい学会としてしっかり定着してきたと思います。反面、設立当初のう蝕治療中心の臨床から子どもたちの口腔の健康管理中心の臨床への変化や子どもたちを取り巻く社会や家族環境の変化、地方会の事務的作業の増大にもかかわらず、大学医局員スタッフの削減における現在でも各大学のボランティアに依存している現状を考えた場合、抜本的な見直しも必要かもしれません。

いずれにしても、会員としてはなるべく効率よく知識や技術を習得でき、多くの先生との交流や懇親を通じて楽しい学会であることが理想なので、今後のあり方については、会員相互に良い知恵を出し合い、将来に向けてさらに良い魅力的な九州地方会になってほしいと思います。